

## 会 議 録

1 会議名 地域クラブ活動の円滑な推進に関する市民会議

2 会議種別 市政運営上の会合

3 議 題

- ・各取組の進捗状況の確認について
- ・地域クラブ活動に関する現状確認
- ・主要取組事項に関する意見交換

4 開催日時 令和8年7月17日(金)  
16時00分 ～ 18時00分

5 開催場所 北九州市立子ども図書館 2階 大研修室

6 出席者氏名(敬称略)

【構成員】

高田俊也、大島まな、菱谷恒一、石川隆之、三浦豊、高橋敦、上村英樹、  
園田美恵子、佐々木和古、神田摩耶、梅林繁喜、  
市立中学校生徒代表(氏名非公表)※オンライン参加

【ヒアリング説明者】

土居氏<NPO 法人 TOTOS 北九州 代表理事>

【事務局】

太田教育長、星之内教育次長、栗原総務企画部長、古小路生徒指導担当部長、  
海老部活動地域展開担当課長、木村部活動地域展開担当課長、村上部活動地域  
展開担当課長、高尾企画調整課長

7 議事概要

- ・ 開会にあたり、太田教育長より挨拶
- ・ 各取組の進捗状況について事務局より説明、質疑応答
- ・ 地域クラブ活動の現状について説明、質疑応答
- ・ 主要取組事項について事務局より説明、意見交換

## 8 会議経過（発言要旨）

### 議題1「各取組の進捗状況の確認」について事務局より説明

#### <質疑応答>

##### 【構成員】

指導者研修会の受講認定証を交付された680名について、運動・文化の別や種目、地域別の状況は把握しているか。種目や地域による偏りがあるのか確認したい。

##### 【事務局】

指導者研修会ではそういった情報を把握していない。今後は、個人情報適切に管理しながら、地域クラブに有益な情報を把握・活用する方法を検討したい。

##### 【座長】

現在の研修は、地域クラブで指導するための認定を受けるものであり、受講後すぐにクラブで指導できるわけではない。

構成員が指摘された点は、今後人材バンクを設ける際にしっかり把握してはどうか。クラブとマッチングする際に人物像が分からないまま指導者を迎えることは難しく、コーディネーター等による調整も重要である。

##### 【構成員】

前回、小学校への周知が必要との意見があった。今回配信した小学生・保護者向け説明動画について、反応はあるか。

##### 【事務局】

小学校だけでなく、小・中・特別支援学校の全ての保護者に配信し、教育委員会ホームページにも掲載した。具体的な声はまだ多くないが、新たな周知方法として、少しずつ理解を深めていただきたい。

##### 【構成員】

学校部活動、認定地域クラブ、民間クラブチームの相互関係やすみ分けが十分に整理されておらず、一般の方には3者の違いが分かりにくいのではないか。民間クラブが認定地域クラブとなり、中体連大会に出場する事例も含めて整理が必要である。

##### 【事務局】

学校部活動は学校が主体となって実施し、認定地域クラブは学校部活動の教育的意義を一定程度継承しながら、学校以外の団体が実施する。教育委員会の認定を受け、公的な性格を有する点が一般の民間クラブとの違いである。

既存の民間クラブが認定を受け、従来の活動と併せて地域クラブ活動を行うことも可能である。認定に当たっては、学校部活動の教育的意義の継承や、活動時間等のガイドライン遵守を要件としている。

認定を受けたクラブであることが一目で分かる共通名称を設けている他都市の

例もある。3者の違いを分かりやすく示す仕組みを、他都市事例も研究しながら検討したい。

【構成員】

同じ学校の生徒が3つの活動に分かれることや、市外の生徒が市内のクラブに参加することも想定されるため、整理してほしい。

【座長】

認定地域クラブは、対象となる生徒、活動目的、活動時間等について厳密なルールが定められている。中体連大会への参加は、全国、県、市、各競技のルールが必ずしも同一でない面もあるため、北九州市の事例とルールを明確にし、分かりやすく示す必要がある。

【構成員】

地域展開について、校長だけが理解し、現場の教職員の理解が十分に進んでいないため、地域や小学生、保護者への説明が、かえって戸惑いを生じさせていた面がある。中学校長会では、全市の校長を対象に研修会を開催し、まず自校の教職員への校内研修を進めることで意思統一した。

さらに、小学校5・6年生と保護者への説明を、秋から12月までに全中学校区で実施する方向である。学校運営協議会等、地域の方が集まる機会にも説明し、地域全体で子どもたちの希望に応じた活動ができるよう取り組みたい。

【構成員】

生活困窮世帯への支援制度について、詳しく教えてほしい。全ての子ども、保護者にとって公平な制度であるべきと考える。

【事務局】

現在、制度設計を進めている。就学援助や生活保護の対象世帯等に対し、地域クラブ活動費の一部を補助できないか検討しており、詳細が固まり次第、改めて説明する。

## 議題2「地域クラブ活動に関する現状確認」についてヒアリング

### (1) NPO 法人 TOTOS 北九州より、地域クラブの取組と課題について説明

【ヒアリング説明者】

TOTOS 北九州は、小・中学生向けのバドミントン初心者教室を基盤として、4つの活動を地域クラブとして認定申請した。学校部活動等との連携を生かした「部活動連携型」、クラブチームほど競技志向ではないが活動機会を増やしたい生徒を支える「中間層支援型」、聴覚障害や難聴のある子どもたちの活動場所をつくる「障害者支援型」の3つに整理して運営している。

「部活動連携型」は、板櫃中学校、小倉北特別支援学校等で、主に土曜日に活動している。中学生会員は15名で、月会費は3,000円。指導者のほか、OB、大学生、高校生等にも補助員として協力してもらっている。既存の活動基盤があり、比較的安定して運営できている。

「中間層支援型」の企救中・東谷のクラブは、小学生向け教室の参加者が中学校進学後も活動できる場として立ち上げた。中学生の参加者や指導者が少ないため、地域の大人と多世代交流をしながら活動している。週5・6回のクラブチームほどではないが、週1回より多く活動したい生徒等の目標となるよう、初心者も参加しやすい地域クラブバドミントン大会を開催する。

「障害者支援型」は、小倉聴覚特別支援学校の生徒や市立学校に通う難聴の子どもたちを中心に、障害の有無を超えた交流や手話を使ったコミュニティづくりを目指す。参加者は3名で、会費は1回500円。特別支援学校の教員や障害者チームのメンバーも指導を補助している。

運営上の課題として、教育委員会と学校の制度理解や対応の温度差、保護者への説明の難しさ、学校施設の利用や生徒への周知に関する受入体制、「地域クラブ」「地域展開」という言葉の分かりにくさがある。行政の方針を明確にし、学校、保護者、運営団体が共通理解を持てるようにする必要がある。

TOTOS 北九州は、既存の教室、約300人から350人の会員、有給コーチ、実業団・障害者チーム等の人材を基盤としており、指導者に何かあった場合にも補完できる。保護者だけに依存せず、長期的な視点を持つ職員や指導者が運営を担い、持続可能な形を明確にすることが、地域クラブ活動を一過性のものにしないために重要である。

## （２）生徒代表より、地域クラブ活動への参加経験について説明

### 【生徒代表】

クラブに参加することで別の学校の友達ができ、学校の体育館に限らず、様々な場所で活動できることや、部活動と違って、クラブチームはしっかり練習するイメージがあるので、自分が強くなっている、成長していると感じられることがよい。

一方で、活動場所までの移動距離が長く、保護者の車やバスで移動するため、部活動では学校が終わってすぐに始められるが、活動場所まで移動するので、開始時間に遅れることもある。

しかし、学校では経験できないイベントや、聴覚障害のある方々との交流も、将来に役立つ経験になると感じている。

### 【ヒアリング説明者】

補足すると、生徒代表は、聴覚特別支援学校の生徒や障害者チームの方々とも積極的に関わり、ダブルスや大会、車いすバドミントン等のイベントにも参加し

ている。大人や障害のある方など、多様な方と関わるよい経験となっており、保護者にも喜ばれている。

#### <質疑応答>

##### 【構成員】

「NPO 法人 TOTOS 北九州」の中学生 15 名は、全員が中学生か。大人も一緒に活動しているのか。

##### 【ヒアリング説明者】

小・中学生を対象とする活動で、中心は中学生である。担当コーチが指導する体制としている。

##### 【構成員】

運営基盤が整った団体が複数の地域クラブを運営していることは素晴らしい。一方で、地域や家庭の事情による格差が生じることを懸念している。保護者の送迎を受けられる子どももいれば、参加したくてもできない子どももいる。大人の事情に子どもが巻き込まれないようにしてほしい。

優れたクラブが増えるほど子どもたちの間の格差が広がり、「地域全体で支える」という趣旨から離れる可能性もある。制度や中体連の仕組みが変わったときに、北九州の子どもたちが困らないよう、先を見据えて検討してほしい。

##### 【事務局】

既に運営が確立し、本市の理念に賛同する団体が参加しやすい環境をつくる必要がある。他の自治体ではそうした既存団体主体で活動している例もあるが、北九州市全域を既存団体だけでカバーすることはできないと考えており、保護者主体で立ち上げた地域クラブも多い。既存団体と新たに立ち上がった団体の双方が活動しやすいよう、立ち上げ・運営支援の内容を具体化していく必要がある。

##### 【ヒアリング説明者】

TOTOS は、バドミントンの普及が届いていない人に届けることを目的としている。生活困窮世帯や児童養護施設の子どもたちへのイベント等も検討している。行政の支援だけでなく、団体側でも仕組みをつくるのが大切である。

##### 【構成員】

総合型地域スポーツクラブとして、今後、バドミントン以外の種目も展開する考えはあるか。

##### 【ヒアリング説明者】

本来は多種目であるべきと考えており、他の種目への拡大が今後の課題である。

##### 【座長】

TOTOS は、多くのメンバーを巻き込み、運営を次の人へ引き継ぎながら進めている。障害のある方など様々な方との交流は、技術向上だけでなく、スポーツを通じて人としての学びを育てるものであり、参考になる点が多い。

【構成員】

生徒代表の平日の活動は、どのような形で行っているのか。

【生徒代表】

水曜日と金曜日の 19 時から 21 時まで活動しており、学校生活に支障なく参加できている。水曜日は障害者チーム、金曜日は大人の活動に参加し、土曜日に中学生の地域クラブで活動している。

議題3「主要取組事項に関する意見交換」

- ・ポスター、ポータルサイト及びFAQについて事務局より説明
- ・指導者人材バンク、指導者研修及び教員の兼職兼業について事務局より説明

＜質疑応答＞

【構成員】

休日の地域クラブ活動と平日の学校部活動の関係が分かりにくい。令和9年9月以降、両者は全く別のものと理解してよいのか。チームスポーツでは、複数の学校の生徒が地域クラブに参加することで混乱が生じる可能性もあるため、考え方を統一してほしい。

【事務局】

令和8年9月から第1・第3土曜日と日曜日が学校部活動の休養日となり、令和9年9月からは、休日の学校部活動を行わず、学校部活動は平日のみとなる。形式上、学校部活動と地域クラブ活動は別のものであるが、学校部活動を母体として設立された地域クラブなど、両者に連続性がある場合もある。

地域クラブには、原則として市立中学校の生徒であれば参加でき、他校の生徒等が参加することも想定される。大会参加や、平日と休日の指導者間の連携など、運営上整理が必要な事項について、引き続き丁寧に周知する。

【構成員】

毎日練習しなければならないという考え方を変え、様々な種目に取り組むことや、友だちと遊ぶ時間も大切にしながら、楽しくスポーツができる環境づくりを進めてもらいたい。

また、文化部の地域展開はスポーツよりも難しいと感じる。消防音楽隊や警察音楽隊など、地域の音楽団体と連携し、合同練習等を行うことで、学校だけでは難しい部分を補えないか。

【事務局】

現在、市内24校の吹奏楽部に、今後の活動意向を確認している。地域クラブの方々から協力を得たいとの意見があれば、消防音楽隊や民間団体等の情報を得ながら、教育委員会として連携できる仕組みや支援を検討する。

【座長】

学校部活動と休日の地域クラブ活動の連携については、週2日の休養日が求められていることも踏まえ、平日と休日の活動を合わせて、生徒の活動量や健康を適切に管理することが重要である。

【構成員】

地域クラブの立ち上げについて、コーディネーターには、申請方法や指導者確保など、実際にどのような相談が多く寄せられているか。

【事務局】

立ち上げの手続きや、クラブの規約とガイドラインの内容との不整合の調整に関する相談が中心である。指導者が見つからないという相談は、現時点では多くない。

【構成員】

現在の認定地域クラブは、休日の学校部活動が地域クラブとして形を変えて活動しているケースが多いのか。

【事務局】

正確な数は把握していないが、7割から8割程度が休日の学校部活動を引き継ぐ形で立ち上がったクラブと考えている。

【構成員】

ポータルサイトの「地域クラブを探す」ページには、各クラブが何に重点を置き、どのような活動をしているのか、短い文章でも掲載すると、利用者に分かりやすいのではないか。

【事務局】

他都市では活動の重点や特色を掲載している例もあるため、利用者のニーズを踏まえて必要な項目を検討する。

【構成員】

個人的に地域説明会に参加した際、保護者から高校入試の推薦について質問があった。地域クラブにおいて活動できた子どもだけが評価を得ることにならないような仕組みが必要である。また、企業や強いチームだけでなく、地域に根付いたクラブが立ち上がってほしい。

指導者人材バンクについて、地域の方々が登録しやすい仕組み、登録募集の広報、関係部署との協力をどのように考えているか。

【事務局】

入試の調査書には、学校部活動、民間クラブ、認定地域クラブのいずれであっても、本人が努力した実績等を記載する。地域クラブであっても実績が評価されないということはない。

他都市では、スポーツや文化芸術だけでなく、ボランティア、サステナブル等の

活動も地域クラブとして立ち上がっている。意欲のある方や人材の情報を得ながら、人材バンクの設計に生かしたい。

【構成員】

福岡県中体連では、既存の民間クラブを「地域クラブ」、教育委員会から認定を受けたクラブを「認定クラブ」と呼称している。北九州市と中体連で用語が異なるため、福岡県中体連の情報も確認し、FAQ 等の表現を整理してほしい。

分かりやすい概要説明と、事実を正確に記載した FAQ など、複数の段階で情報を示す必要がある。

【事務局】

用語と FAQ の表現について、確認の上、正確に整理する。

【事務局】

本日の意見を踏まえ、事務局の取組をさらに進化させ、その状況を次回以降の市民会議で示し、引き続き意見交換を重ねたい。

【事務局】

大切なのは、子どもたちがどのような活動を行い、それをどのように支えるかということである。地域の方と一緒に、子どもたちが自主的、主体的に楽しみながら活動できるよう、仕組みを整え、様々な支援を行っていく必要がある。今後も多様な立場から意見をいただき、取組をさらに磨いていきたい。

【座長】

本日の議論でも、取組の趣旨を丁寧に伝えること、名称や用語を整理すること、現場を含めて理解を統一することの必要性が示された。様々な場面で誤解が生じないように、引き続き取り組んでもらいたい。

9 その他

会議を公開で実施。

10 問い合わせ先 教育委員会 総務企画部 企画調整課  
電話番号 093-582-2357